

第36期
事業報告書及び決算報告書

自2024年4月1日
至2025年3月31日

公益財団法人 医療科学研究所

I 第 36 期(2024 年 4 月 1 日～2025 年 3 月 31 日)

事業報告書

1. 研究員育成（研究員育成委員会）

1) 研究員の異動

赤池美紀研究員は就職のために2024年4月末をもって医研を退職した。2024年4月1日より岡田恵美子研究員は2年目に入り、同4月1日より高木悠希研究員を採用した。高木研究員のメンターは近藤克則先生にお引き受けいただいた。

2) 研究員育成委員会：望月眞弓委員長

2024年6月11日、第1回研究員育成委員会を開催し、望月委員長の再任がなされた。同委員会では岡田研究員と高木研究員の研究計画の発表と、2025年度の採用に向けて募集要項とスケジュールを検討いただいた。

2025年度の採用に向けたスケジュールは以下のとおりである。

- 2024年12月1日：募集開始
- 2025年1月27日：応募締切
- 2025年2月4日～13日：書類選考
- 面接候補者に対する説明会
- 2025年3月5日：面接選考会および第2回研究員育成委員会（菊永一輝さんを採用）

3) 倫理審査委員会

※公益事業3の自主研究プロジェクトの研究計画も対象としている。

- (1) 2024年9月20日、第1回委員会を開催し、岡田研究員からの申請による「育児休業を取得したパートナーからのサポートと産後女性の精神的健康に関する経験：質的研究」と、吉野研究員からの申請による自主研究プロジェクト「ウェルビーイングと健康まちづくり」における調査研究の1つである「センサーを用いた香川県直島町の人流の検討」の研究計画が審査された。岡田研究員の計画は委員会での指摘事項について研究計画の修正が指示され、修正後の内容をもって承認された。吉野研究員からの申請は継続審議となった。
- (2) 2024年10月24日、第2回委員会を開催し、吉野研究員から再申請された「センサーを用いた香川県直島町の人流の検討」の研究計画が審査され、付帯条件付きで承認された。委員会後、付帯条件となった当該人流調査における共同研究先である東京大学の倫理審査委員会の承認が得られた。
- (3) 2024年12月25日開催の事業進捗状況報告会で姉川先生より、付帯条件が満たされたことについて委員会へ報告すべきところの指摘があり、東京大学の倫理審査委員会の承認について委員会へ報告がなされた。また、東京大学の倫理審査の概要と、自主研究プロジェクトのファカルティフェローである内田由紀子先生（京都大学）が研究代表となっている調査研究に対する京都大学の倫理審査委員会の概要についても委員会へ報告がなされた。

2. 研究助成（研究助成選考委員会）

1) 研究助成選考委員会：萱間真美委員長

- (1) 2024年4月15日、第1回研究助成選考委員会を開催し、「指定課題研究」のテーマとして、近藤克則先生よりご提案いただいた「誰一人取り残さない健康づくりの展開」、昨年度近藤尚己先生よりご提案いただいた「地球環境に配慮した保健医療に関する研究」、

一昨年近藤克則先生よりご提案いただき、一昨年度より採用された「保健医療分野のデジタルトランスフォーメーション」の3テーマが選定された。

- (2) 同委員会で選考スケジュールを検討し、応募件数が多い場合は2段階審査とすることとした。
- (3) 5月10日から6月30日まで募集を行い、これまで最多の96件の応募を得、内4件は委員長の判断のもとに審査対象外となった。内訳は、既存研究領域42件、指定課題研究①23件、指定課題研究②2件、指定課題研究③29件であった。
 - ・ 指定課題研究①「誰一人取り残さない健康づくりの展開」
 - ・ 指定課題研究②「地球環境に配慮した保健医療に関する研究」
 - ・ 指定課題研究③「保健医療分野のデジタルトランスフォーメーション」
- (4) 応募数が多いため2段階による審査が行われた。1次審査では委員を3グループに分け、審査対象テーマを各グループに均等に振り分けた。1次審査の結果から30件を2次審査の対象とし、委員全員により2次審査が行われた。
- (5) 9月12日に開催した選考会議による審議で10件(下記2)を参照)を選出し、助成金総額は749万7千円となった。
- (6) 同日に開催した第2回研究助成選考委員会で、萱間委員長の再任が承認された。
- (7) 10月8日、医研会議室にてオンライン併用で、萱間委員長、委員の池田先生、井深先生、鈴木小夜先生、西先生、三村優美子先生、三村理事長、松江専務理事の出席のもと、研究助成金贈呈式を開催した。

2) 研究助成対象者と研究テーマおよび贈呈額

- (1) 間質性肺疾患患者と家族、医師のアドバンス・ケア・プランニング実施認識と予後認識の一致度に関する調査：複数施設横断研究
東京医科歯科大学大学院保健衛生学研究科看護先進科学専攻 5年一貫博士課程
小田清花
(贈呈額 572,000 円)
- (2) 機械学習を用いた妊産婦・乳幼児家庭の養育不調リスクのクラスター分類と早期予測モデル
国立成育医療研究センター社会医学研究部 上級研究員 帯包エリカ
(贈呈額 700,000 円)
- (3) 心電図判読スキルの評価ツール開発～世界標準の学習システム構築を目指して～
愛媛大学医学部医学科 医学生5回生 加我友寛
(贈呈額 800,000 円)
- (4) 宇宙医学をテーマにした国際小児教育プログラムによる長期入院患児の心身機能への影響
杏林大学医学部リハビリテーション医学教室 講師 田代祥一
(贈呈額 700,000 円)
- (5) 子どもの概日リズム変調に対する個別最適な睡眠スケジュールに基づく睡眠教育の効果評価
広島大学大学院人間社会科学研究科 准教授 田村典久
(贈呈額 700,000 円)
- (6) 職場の健康づくりプログラムへの参加が労働者の健康指標に及ぼす長期的効果の推定
京都大学大学院医学研究科社会疫学分野 博士課程 永田英恵
(贈呈額 700,000 円)
- (7) 患者報告アウトカム (Patient-Reported Outcome : PRO) の変化を予測する人工知能の開発

大阪大学大学院医学系研究科器官制御外科学整形外科 講師 藤森孝人

(贈呈額 760,000 円)

- (8) ストーマを保有する高齢者がいきいきと社会参加する健康な街づくりの基盤形成

石川県立看護大学附属看護キャリア支援センター 講師 宮崎 (廣畑) 梓

(贈呈額 665,000 円)

- (9) 心不全発症前診断と保健指導均てん化による、「心不全パンデミック」を克服するための保健事業の開発と検証

国立大学法人京都大学大学院医学研究科医学専攻 博士課程 森 雄一郎

(贈呈額 900,000 円)

- (10) 救急医療の質向上に資する地域の救急医療データの連結と利活用推進に関する研究

奈良県立医科大学救急医学教室 診療助教 山本幸治

(贈呈額 1,000,000 円)

3. 医療経済研究会 (自主研究委員会)

1) 医療経済研究会開催実績と予定

オンライン併用で以下の内容で9回開催した。

- (1) 2024 年 4 月 22 日 (座長：池田俊也) 参加人数 17 名 (会場参加 6 名、オンライン参加 11 名)

- ・ 「口腔と認知症発症との関連の解明ー口腔が認知症発症に及ぼすパスウェイの解明と、口腔と認知症を伴わない余命期間との関連ー」

➢ 木内 桜 (東北大学学際科学フロンティア研究所・歯学研究科)

- (2) 5 月 27 日 (座長：中山健夫) 参加人数 19 名 (会場参加 14 名、オンライン参加 5 名)

- ・ 「妊娠に関連する不安に対する妊婦のニーズ探索、測定尺度の開発およびその背景因子の検討」

➢ 調 律子 (東京大学医学部附属病院 大学病院医療情報ネットワークセンター特任助教)

- (3) 6 月 24 日 (座長：鈴木 亘) 参加人数 15 名 (会場参加 11 名、オンライン参加 4 名)

- ・ 「重症熱傷患者広域医療連携の知見に基づく重症患者集約化モデルの確立」

➢ 加藤 聡一郎 (杏林大学医学部救急医学講師)

- (4) 7 月 29 日 (座長：橋本英樹) 参加人数 44 名 (会場：19 人、オンライン：25 人)

※ 医療科学フォーラム形式 (参加案内を医療経済研究会より拡大している形式)

- ・ 「自主研究プロジェクト『健康危機管理に対するガバナンス：COVID-19からの教訓』成果報告」

➢ 城山英明 (東京大学大学院法学政治学研究科教授、ファカルティフェロー)

➢ 宗前清貞 (関西学院大学総合政策学部教授、プロジェクトメンバー)

➢ 小坂 健 (東北大学大学院歯学研究科教授、プロジェクトメンバー)

➢ 山邊聖士 (長崎県立大学地域創造学部講師、プロジェクト研員)

- (5) 9 月 30 日 (座長：中村好一) 参加人数 26 名 (会場：10 人、オンライン：16 人)

※ 医療科学フォーラム形式

- ・ 「産後メンタルヘルスに対する支援ネットワークの充実化：プライマリ・ケア医の意義と役割」

➢ 鳴本敬一郎 (浜松医科大学地域家庭医療学講座)

- (6) 10 月 21 日 (座長：小塩隆士) 参加人数 14 名 (会場：8 人、オンライン：6 人)

- ・ 「ロボットによる脳卒中患者への歩行リハビリテーションの費用対効果の分析」

➢ 森井康博 (国立保健医療科学院保健医療経済評価研究センター研究員)

- (7) 11月25日（座長：中村 洋）参加人数49名（会場：6人、オンライン：43人）
※ 医療科学フォーラム形式
- 「地域在住高齢者における認知的フレイルと要介護認定、給付費および医療費：10年間の前向き研究」
 - 陳 三妹（広島大学大学院医学系研究科保健学専攻国際保健看護学准教授）
- (8) 2025年1月27日（座長：近藤克則）参加人数16名（会場：11人、オンライン：5人）
- 「祭礼への参加・不参加状況種別と認知機能との関連に対する検討：『社会参加』の広がりを展望して」
 - 高木悠希（医研研究員）
- (9) 3月31日（座長：秋山美紀）参加人数14名（会場：11人、オンライン：3人）
- 「オンライン健康医療相談による産後うつ予防の長期的効果および孤独感低下による媒介効果」
 - 荒川裕貴（横浜市立大学医学部公衆衛生学教室助教）

公益事業2：医療科学の研究成果を社会に還元する事業

1. 医研シンポジウム（医研直轄）

1) 医研シンポジウム 2024 の開催

テーマ：「医療の多面的価値、バリューフラワー」

日時：2024年10月22日（火）13:30～17:00

会場：灘尾ホール（新霞が関ビルLB階）/Zoom ウェビナー同時配信

後援：厚生労働省

来賓挨拶：内山博之（厚生労働省医薬産業振興・医療情報審議官）

座長：橋本英樹（東京大学大学院医学系研究科教授）

講演（発表順）：

〈座長基調講演〉橋本英樹

〈講演〉

池田俊也（国際医療福祉大学医学部教授/キヤノングローバル戦略研究所研究主幹）

齋藤英子（東京大学大学院新領域創成科学研究科准教授）

廣實万里子（ヤンセンファーマ株式会社インテグレイテッド・

マーケットアクセス本部 医療政策部アソシエイトディレクター）

桜井なおみ（キャンサー・ソリューションズ株式会社代表取締役社長）

五十嵐 中（東京大学大学院薬学系研究科特任准教授）

講演後パネルディスカッション

会場にオンラインを併用するハイブリッド形式で開催し、会場：61名、オンライン：220名、合計 281 名が参加された。シンポジウム終了後に医研ホームページ上で講演動画を公開した。

医研シンポジウム2024アンケート集計（会場およびオンライン参加者）

設問1：シンポジウムの全体的な感想

項目	大変満足	まあまあ満足	やや物足りない	物足りない	無回答	合計
回答数	78	39	4	0	0	121
%	64.5%	32.2%	3.3%	0.0%	0.0%	100.0%

設問2：シンポジウムに参加した目的（複数回答可）

項目	テーマについて、内容や考え方を知らため	内容が今行っている仕事に 関係しているため	内容が今後の 業務の参考となり 得るかもしれないから	座長・パネリスト への関心	他の参加者との コミュニケーション	その他一般 的・情報収集
回答数	92	52	58	39	2	4
%	37.2%	21.1%	23.5%	15.8%	0.8%	1.6%

アンケート回答参加者内訳

項目	医療機関	大学・研究機関	公務員	医療関連企業	その他企業	報道・出版	その他	合計
参加者数	6	23	0	75	7	6	4	121
%	5.0%	19.0%	0.0%	62.0%	5.8%	5.0%	3.3%	100.0%

*アンケート回収率：43% 121枚/281名（参加者：会場61名、オンライン220名）

2. 産官学懇談会（産官学懇談会事業等委員会）

1) 産官学シンポジウム 2024

テーマ：「ヘルスケア産業における日本の強みとは何か？」

日時：2024年5月18日（土）13:30～17:00

会場：灘尾ホール（新霞が関ビル LB 階）/Zoom ウエビナー同時配信

後援：厚生労働省

来賓挨拶：内山博之（厚生労働省医薬産業振興・医療情報審議官）

座長：成川 衛（北里大学大学院薬学研究科教授）

講演：（発表順）

〈座長基調講演〉成川 衛

〈講演〉

大和 隆志（エーザイ(株)常務執行役）

藺田 啓之（JCR ファーマ(株)常務取締役研究本部長）

釜井 宏行（文部科学省研究振興局ライフサイエンス課長）

下田 裕和（経済産業省商務・サービスグループ生物化学産業課長）

講演後パネルディスカッション

会場にオンラインを併用するハイブリッド形式で開催し、会場参加：31 名、オンライン参加：120 名の合計 151 名が参加された。シンポジウム終了後に医研ホームページ上で講演動画を公開した。

産官学シンポジウム2024 アンケート集計結果

設問1：シンポジウムの全体的な感想

項 目	大変満足	まあまあ満足	やや物足りない	物足りない	無回答	合 計
回答数	24	31	3	0	1	59
%	41%	53%	5%	0%	2%	100%

参加した目的（複数回答可）

項 目	会社(組織)で重要	政府の取り組み	自身の学問と関係	情報収集	参加者との情報交換	演者への関心
回答数	26	23	17	22	0	3
%	44%	39%	29%	37%	0%	5%

回答者の業種

項 目	公務員	大学・研究機関	製造業	サービス業	報道・出版	その他	合 計
回答数	1	14	31	5	4	4	59
%	2%	24%	53%	8%	7%	7%	100%

どこで知ったか

項 目	電子メール	ホームページ	チラシ	その他
回答数	31	7	4	15
%	53%	12%	7%	25%

2) 産官学懇談会事業等委員会：成川 衛委員長

2024 年 10 月 4 日、産官学懇談会事業等委員会を開催し、今後とりあげる産官学懇談会事業のテーマについて検討がなされた。議論の中で「日本の創薬力強化」に関心が高く、今後の少人数懇談会で取り上げて議論を深めることになった。

3) 第 1 回産官学少人数懇談会

テーマ：『「日本の創薬力強化」ーグローバルや異業種とのプレーヤー連携における課題、日本の医薬品市場はどのように見えるか(魅力があるか)ー』

日時： 2024 年 12 月 9 日（月）18:00～20:00（終了後懇親会開催）

演者

小柳 智義（京都大学医学部附属病院 先端医療研究開発機構（iACT）ビジネスディベロ
ップメント室 室長 特定教授）
布施 紳一郎（TPG Life Sciences Innovations, Partner/ Managing Director）

座長

成川 衛（北里大学大学院薬学研究科臨床医学教授／産官学懇談会事業等委員会委員長）

参加者（※リモート参加）

〈行政〉

下田 裕和（経済産業省商務・サービスグループ生物化学産業課長（バイオ課））
武田 俊彦（内閣官房健康・医療戦略室政策参与、元厚生労働省医政局長）
水谷 忠由（厚生労働省医政局医薬産業振興・医療情報企画課長）
屋敷 次郎（日本医療研究開発機構（AMED）理事）

〈研究機関〉

山田 謙次（日本製薬工業協会医薬産業政策研究所所長）

〈大学〉

白神 誠（日本大学名誉教授／産官学懇談会事業等委員会委員）※
富田 健司（同志社大学商学部教授／産官学懇談会事業等委員会委員）
中村 洋（慶應義塾大学大学院経営管理研究科教授／産官学懇談会事業等委員会委員）
中本 龍市（九州大学大学院経済学研究院准教授）※
野口 晴子（早稲田大学政治経済学術院教授／産官学懇談会事業等委員会委員）※
舟津 昌平（東京大学大学院経済学研究科講師）

〈企業〉

岡田 安史（エーザイ株式会社代表執行役／産官学懇談会事業等委員会委員）
白神 昇平（アステラス製薬株式会社渉外部）（熊谷委員欠席のため、代理出席）※
武岡 紀子（サノフィ株式会社マーケットアクセス部門長兼流通本部長代理）

〈医療科学研究所〉

三村 將（理事長）
松江 裕二（専務理事）

〈事務局〉 川村 高紀、今上 妙子、五十嵐 裕子

4) 第2回産官学少人数懇談会

テーマ：『「日本の創薬力強化」ーグローバルや異業種とのプレーヤー連携における課題、
日本の医薬品市場はどのように見えるか(魅力があるか)ー』

日時： 2025年2月6日（木）18:00～20:00（終了後懇親会開催）

演者

池浦 義典（アクセリード株式会社 取締役 Co-CEO 兼 CTO）
中鉢 知子（医薬品開発能力促進機構 設立理事）

座長

成川 衛（北里大学大学院薬学研究科臨床医学教授／産官学懇談会事業等委員会委員長）

参加者（※リモート参加）

〈行政〉

釜井 宏行（文部科学省研究振興局ライフサイエンス課長）※
下田 裕和（経済産業省商務・サービスグループ生物化学産業課長（バイオ課））
武田 俊彦（内閣官房健康・医療戦略室政策参与、元厚生労働省医政局長）
水谷 忠由（厚生労働省医政局医薬産業振興・医療情報企画課長）
屋敷 次郎（日本医療研究開発機構（AMED）理事）

〈研究機関〉

山田 謙次（日本製薬工業協会医薬産業政策研究所所長）※

〈大学〉

富田 健司（同志社大学商学部教授／産官学懇談会事業等委員会委員）※
中村 洋（慶應義塾大学大学院経営管理研究科教授／産官学懇談会事業等委員会委員）※
中本 龍市（九州大学大学院経済学研究院准教授）※
野口 晴子（早稲田大学政治経済学術院教授／産官学懇談会事業等委員会委員）※
舟津 昌平（東京大学大学院経済学研究科講師）※

〈企業〉

岡田 安史（エーザイ株式会社代表執行役／産官学懇談会事業等委員会委員）
熊谷 裕輔（アステラス製薬株式会社担当役員）※
武岡 紀子（サノフィ株式会社マーケットアクセス部門長兼流通本部長代理）
児玉 雅人（エーザイ株式会社）※

〈医療科学研究所〉

松江 裕二（専務理事）

〈事務局〉 川村 高紀、今上 妙子、五十嵐 裕子

3. 機関誌「医療と社会」刊行（編集委員会）

1) 編集委員会：池田俊也委員長

- (1) 2024年11月26日、編集委員会を開催した。2026年度 Vol. 36, No. 1 の特集テーマについては事前に理事、監事、評議員、委員の先生方から提案を募り、その結果をもとに議論がなされ、テーマ候補として中山健夫先生から提案された「患者・市民参画（PPI）」が選ばれた。その後、池田委員長から中山先生に相談いただき、中山先生に責任編者を引き受けていただいた。

2) 刊行実績

- (1) Vol. 34, No. 1：2024年6月刊行

〈巻頭言〉

「人生の終盤を生きる『ちから』を蓄える」

秋山 美紀（慶應義塾大学環境情報学部教授／公益財団法人医療科学研究所理事）

〈特集 孤独感と社会的孤立 その現状と対応〉

「序文」

近藤 尚己（京都大学大学院医学研究科社会疫学分野）

「孤独感と社会的孤立の定義と理論に関する概観」

林 萍萍（大阪商業大学公共学部公共学科助教）

「社会的養護を必要とする若者の孤立・孤独と参画」

永野 咲（武蔵野大学人間科学部准教授）

「成人期、高齢期における社会的孤立、孤独感の分布と規定要因：文献レビュー」

村山 洋史（東京都健康長寿医療センター研究所 社会参加とヘルシーエイジング研究チーム研究副部長）他

「社会的孤立・孤独感が健康やウェルビーイングに及ぼす影響」

中込 敦士（千葉大学予防医学センター特任准教授）

「社会的孤立・孤独の軽減と予防：一次予防研究の展開に向けて」

浦 光博（追手門学院大学教授）

「社会的孤立・孤独問題に ICT は活用できるのか」

太刀川 弘和（筑波大学医学医療系臨床医学域災害・地域精神医学教授）他

<研究論文>

「終末期がん患者における在宅療養と病院療養に関する QOL と費用の記述」

高橋 奈央（立命館大学総合科学技術研究機構 医療経済評価・意思決定支援ユニット（CHEERS）客員研究員）他

<研究ノート>

「COVID-19 のパンデミックに伴う医療機関の減収および隔離病床の補助金制度施行による減収緩和効果の推定」

古畑 宏樹（一般社団法人ヘルスシステム研究所）他

(2) Vol. 34, No. 2 : 2024 年 8 月刊行

<巻頭言>

「社会保険は税の代わりではない」

鈴木 亘（学習院大学経済学部教授／公益財団法人医療科学研究所理事）

<医療政策ヒストリー座談会録>

「医療政策ヒストリー事業の趣旨」

江利川 毅（医療科学研究所理事長）

「第 9 回 2002（平成 14）年薬事法改正」

「解説（追記）」

新田秀樹（中央大学法学部教授／医療政策ヒストリー座談会事業主任研究者）

「霜鳥一彦氏インタビュー」

「第 10 回 2013（平成 25）年薬事法改正」

「解説」

新田秀樹（中央大学法学部教授／医療政策ヒストリー座談会事業主任研究者）

「座談会録」

（参加者）

栄畑 潤（元厚生労働省医薬食品局長）

木倉 敬之（元厚生労働省医薬食品局長）

平山 佳伸（元厚生労働省審議官〔医薬担当〕）

宮本 真司（元厚生労働省医薬食品局総務課長）

浅沼 一成（元厚生労働省医薬食品局医療機器審査管理室長）

佐藤 大作（元厚生労働省医薬食品局監視指導・麻薬対策課監視指導室長）

※肩書は改正当時のもの

（座談会事業コアメンバー）

新田 秀樹（主任研究者，中央大学法学部教授）

島崎 謙治（アドバイザー，国際医療福祉大学教授）

三谷宗一郎（研究補助者、甲南大学法学部准教授）
江利川 毅（監修、医療科学研究所理事長）
山邊 聖士（監修補佐、医療科学研究所研究員）

「田中志穂氏・飯田隆太郎氏・佐藤大作氏インタビュー」

「医療政策ヒストリー座談会を振り返って」

新田秀樹（中央大学法学部教授／医療政策ヒストリー座談会事業主任研究者）

「医療政策ヒストリー座談会事業区切りの挨拶」

江利川 毅（医療科学研究所理事長）

<研究論文>

「地域で生活する精神疾患当事者が抱く自身の目標や期待する将来像：

アンケート調査の内容分析」

塩澤 拓亮（東京医科歯科大学大学院保健衛生学研究科看護先進科学専攻未来創成

ナースングリサーチセンター特任助教／国立研究開発法人国立精神・

神経医療研究センター精神保健研究所地域精神保健・法制度研究部）他

(3) Vol. 34, No. 3 : 2024 年 10 月刊行

<巻頭言>

「『生成 AI と考える医療』の時代：共有意思決定（shared decision making : SDM）の視点から」

中山 健夫（京都大学大学院医学研究科社会健康医学系専攻健康情報学分野教授／
公益財団法人医療科学研究所理事）

<産官学少人数懇談会概要>

第 1 回「ヘルスケア産業における日本の強みとは何か（1）」

座長 近藤 尚己（京都大学大学院医学研究科教授／医療科学研究所理事
〔産官学懇談会事業等委員会委員長〕）

講演

「創薬における日本の強み」

大和 隆志（エーザイ株式会社常務取締役）

「JCR ファーマの研究開発における取り組みと強み」

高橋 健一（JCR ファーマ株式会社研究本部サイエンティフィックエクスパートフェロー
／基盤技術研究所所長）

自由討議

第 2 回「ヘルスケア産業における日本の強みとは何か（2）」

座長 成川 衛（北里大学大学院薬学研究科教授／医療科学研究所理事〔産
官学懇談会事業等委員会委員長〕）

講演

「ライフサイエンス分野の研究開発の推進について」

釜井 宏行（文部科学省研究振興局ライフサイエンス課長）

「激化する国際競争と我が国バイオ産業の競争力強化に向けて」

下田 裕和（経済産業省商務・サービスグループ生物化学産業課長）

自由討議

<産官学シンポジウム 2024 講演録 ヘルスケア産業における日本の強みとは何か>

開会挨拶 江利川 毅（医療科学研究所理事長）
来賓挨拶 内山博之（厚生労働省大臣官房医薬産業振興・医療情報審議官）
座長基調講演
成川 衛（北里大学大学院薬学研究科教授／公益財団医療科学研究所理事）
講演
「ヘルスケア産業における日本の強みとは何か」
大和 隆志（エーザイ株式会社常務執行役）
「JCR ファーマの研究開発における取り組みと強み」
藺田 啓之（JCR ファーマ株式会社常務取締役研究本部長）
「ライフサイエンス分野の研究開発の推進について」
釜井 宏行（文部科学省研究振興局ライフサイエンス課長）
「我が国バイオ産業（創薬分野）の競争力強化」
下田 裕和（経済産業省商務・サービスグループ生物化学産業課長）
パネルディスカッション

<研究ノート>

「難病医療費助成に関する国会および政府審議会等における議論の傾向と推移」
高橋 幸生（日本社会事業大学研究員
／上智大学総合人間科学研究科社会福祉学専攻博士前期課程） 他

<2022 年度研究助成 研究成果の要旨>

(4) Vol. 34, No. 4 : 2025 年 2 月刊行

<巻頭言>

「ドラッグ・ラグ問題再考」
成川 衛（北里大学大学院薬学研究科教授／公益財団医療科学研究所理事）

<医研シンポジウム 2024 講演録 「医療の多面的価値, バリューフラワー」>

開会挨拶 三村 将（医療科学研究所理事長）
来賓挨拶 内山 博之（厚生労働省大臣官房医薬産業振興・医療情報審議官）
座長基調講演
「医療の多面的価値, バリューフラワー」
橋本 英樹（東京大学大学院医学系研究科教授）
講演
「患者・社会にとっての医療の価値とは？Value Flower がもたらす新しい価値評価
の視点」
池田 俊也（国際医療福祉大学医学部教授／キヤノングローバル戦略研究所研
究主幹）
「デジタルヘルス技術を活用した女性の健康促進と多面的価値評価：衡平性の視
点から」
齋藤 英子（東京大学大学院新領域創成科学研究科サステイナブル社会デザイ
ンセンター准教授）
「新規モダリティなどの革新的な医薬品の価値評価」
廣實 万里子（ヤンセンファーマ株式会社インテグレイテッド・マーケット

アクセス本部医療政策部アソシエイトディレクター)

「医療の価値と公平性」

桜井 なおみ (キャンサー・ソリューションズ株式会社代表取締役社長)

「Value Flower, 今日・明日・明後日」

五十嵐 中 (株東京大学大学院薬学系研究科特任准教授)

パネルディスカッション

<研究論文>

「医薬品 SPD における業務委託状況—DPC/PDPS 対象病院へのアンケート調査を通じて—」

阪口 博政 (金沢大学人間社会研究域経済学経営学系准教授) 他

1. 自主研究（自主研究委員会）

1) 自主研究委員会：近藤尚己委員長

- (1) 2024年7月16日に第1回自主研究委員会を開催し、委員長任期期限となった近藤克則先生に代わり、近藤尚己先生の委員長への選任が承認された。
- (2) 2024年度から開始されている「ウェルビーイングと健康まちづくり」プロジェクトについて、ファカルティフェローの内田由紀子先生（京都大学人と社会の未来研究院院長・教授）より、プロジェクトの概要、計画されている調査研究、研究スケジュールについて説明がなされた。

2) 「ウェルビーイングと健康まちづくり」プロジェクト

本プロジェクトは、多様な個人の最適化は「場」によって支えられるという立場から、「場」の状態をも含めてウェルビーイングの研究に取り組み、まちやコミュニティの観点を含めてウェルビーイングについてレビューを行い、「個人のウェルビーイング」と「場のウェルビーイング」について、実装に向けたエビデンスの生成を行うものである。

(1) プロジェクトメンバー

- ファカルティフェロー：内田由紀子（京都大学人と社会の未来研究院 院長・教授）
- メンバー：
 - 中山真孝（京都大学人と社会の未来研究院特定講師）
 - 荒牧英治（奈良先端科学技術大学院大学先端科学技術研究科ソーシャルコンピューティング研究室教授）
 - 若宮翔子（奈良先端科学技術大学院大学先端科学技術研究科准教授）
 - 吉村有司（東大先端科学技術研究センター減災まちづくり分野特任准教授）
 - 古賀千絵（東大先端科学技術研究センター減災まちづくり分野特任助教）
- アドバイザー：近藤 尚己（京都大学大学院医学研究科教授）
- プロジェクト研究員：吉野伸哉（医研）
- オブザーバー：
 - 神庭慎次（京都大学 内田研究室）
 - 水野啓子（京都大学人と社会の未来研究院 産官学連携支援プロジェクトマネージャー）
 - 伊藤和浩（奈良先端科学技術大学院大学 荒牧研究室）
 - 林 純子（奈良先端科学技術大学院大学 荒牧研究室）
 - 高木悠希（医研研究員）
- 医療科学研究所：
 - 三村 将（理事長）
 - 松江裕二（専務理事）
 - （事務局）川村高紀、五十嵐裕子

(2) プロジェクト会議

以下の日程で定期的にメンバー会議を開催し、プロジェクトの進捗と計画を確認している。

- 第1回：2024年5月17日
- 第2回：2024年8月2日
- 第3回：2024年10月15日
- 第4回：2024年12月23日
- 第5回：2025年2月6日

2. 自主研究（医研直轄）

1) 創薬力向上に向けての研究戦略プロジェクト

日本における創薬力の向上について、経営学的なアプローチを行うプロジェクトとして、2023年8月から開始し、期間は2025年6月までである。

(1) プロジェクトメンバー

- リーダー：富田健司（同志社大学商学部教授）
- メンバー：
 - 中本龍市（大阪公立大学商学部教授）
 - 舟津昌平（東京大学大学院経済学研究科マネジメント専攻経営講座講師）
 - 武田俊彦（元内閣官房 健康・医療戦略室 政策参与、ボストンコンサルティンググループシニアアドバイザー）
 - 成川 衛（北里大学薬学部臨床医学教授）
 - 田井中 良（アステラス製薬(株)研究戦略&コミュニケーションズ部門長）
 - 濱野武士（エーザイ(株)IR 部副部長）
- オブザーバー：
 - 三谷大地（厚労省医薬産業振興・医薬情報企画課課長補佐）
 - 須賀幹郎（厚労省医政局医薬産業振興・医薬情報企画課総括調整官）
- 医療科学研究所：
 - 三村 將（理事長）
 - 松江裕二（専務理事）
 - （事務局）川村高紀、五十嵐裕子

(2) プロジェクト会議（2024年度開催分）

第6回 2024年4月24日

「これまでのまとめと今後の方向性の討議」

第7回 2024年5月28日

「エーザイにおけるプロジェクトマネジメントと事業開発活動」

濱野武士（エーザイ(株)ポートフォリオ&プロジェクトマネジメント部長）

山本暁彦（エーザイ(株)C&I 部日本室長）

第8回 2024年7月5日

「大学発ベンチャーについてー東京核酸合成株式会社とその周辺のもろもろ」

岡本 晃充（東京大学大学院工学系研究科教授）

第9回 2024年9月25日

「出口戦略がうまく行っている創薬ベンチャーの事例：企業から独立した創薬ベンチャーへ革新的抗GPCR抗体医薬を創出して、GPCR創薬市場を開拓」

高山喜好（株式会社エヌビー健康研究所 創業者兼代表取締役）

第10回 2025年1月28日

「プレまとめとしての討議」

第11回 2025年3月17日

「創薬力向上に向けた政府の取り組み：検討経過と主要な論点」

武田俊彦（元内閣官房 健康・医療戦略室 政策参与、ボストンコンサルティンググループシニアアドバイザー）

1. 医研Hybrid Homecoming 2024 の開催

昨年に続き、医研の OB・OG を対象としてホームカミングを企画した。「Hybrid Homecoming 2024」として以下の内容で、医研会議室と Zoom を利用したオンラインの併用で開催し、Alumni 13 人と元事務局長（福田英男さん）が参加した。

日時：2024 年 11 月 27 日（水）18:00～20:30

プログラム：

- 三村理事長ご挨拶
- 医研スタッフの自己紹介
- 医研の現況紹介
- 医研 Alumni 研究報告：
津田修治（東京都健康長寿医療センター研究所研究員）
森島 遼（帝京平成大学健康メディカル学部心理学科講師）
- 医研 Alumni 近況報告

Ⅱ 第 36 期(2024 年 4 月 1 日～2025 年 3 月 31 日)

決算報告書

貸借対照表

令和7年3月31日現在

(単位:円)

	当年度	前年度	増 減
I 資産の部			
1.流動資産			
現金	180,779	233,717	-52,938
普通預金	58,175,919	51,860,551	6,315,368
定期預金	3,246,658	2,897,158	349,500
前払金	3,349,665	3,351,135	-1,470
流動資産合計	64,953,021	58,342,561	6,610,460
2.固定資産			
(1)基本財産			
普通預金(指定)	1,000,000	30,722,716	-29,722,716
普通預金(一般)	0	20,277,284	-20,277,284
定期預金	26,753,342	27,102,842	-349,500
預 け 金	0	50,000,000	-50,000,000
投資有価証券(国債)	643,271,500	642,922,000	349,500
投資有価証券(指定)	3,459,186,508	4,515,141,992	-1,055,955,484
投資有価証券(一般)	54,633,892	34,356,608	20,277,284
基本財産合計	4,184,845,242	5,320,523,442	-1,135,678,200
(2)特定資産			
退職給付引当資産	11,898,500	11,674,000	224,500
財政調整積立金	14,404,068	14,404,068	0
特定資産合計	26,302,568	26,078,068	224,500
(3)その他の固定資産			
投資有価証券(社債等)	1,137,100	1,705,620	-568,520
その他の固定資産合計	1,137,100	1,705,620	-568,520
固定資産合計	4,212,284,910	5,348,307,130	-1,136,022,220
資産合計	4,277,237,931	5,406,649,691	-1,129,411,760
II 負債の部			
1.流動負債			
未払金	260,944	535,530	-274,586
預り金	2,729,287	2,392,929	336,358
賞与引当金	1,378,000	1,378,000	0
流動負債合計	4,368,231	4,306,459	61,772
2.固定負債			
退職給付引当金	11,898,500	11,674,000	224,500
固定負債合計	11,898,500	11,674,000	224,500
負債合計	16,266,731	15,980,459	286,272
III 正味財産の部			
1 指定正味財産の部			
寄付金	4,130,211,350	5,265,889,550	-1,135,678,200
指定正味財産合計	4,130,211,350	5,265,889,550	-1,135,678,200
(うち基本財産への充当額)	(4,130,211,350)	(5,265,889,550)	(-1,135,648,200)
2 一般正味財産	130,759,850	124,779,682	5,980,168
(うち基本財産への充当額)	(54,633,892)	(54,633,892)	0
(うち特定財産への充当額)	(14,404,068)	(14,404,068)	0
正味財産合計	4,260,971,200	5,390,669,232	-1,129,698,032
負債及び正味財産合計	4,277,237,931	5,406,649,691	-1,129,411,760

正味財産増減計算書			
令和6年4月1日から令和7年3月31日まで			
	(単位:円)		
	当年度	前年度	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1.経常増減の部			
(1)経常収益			
基本財産運用益	121,996,016	119,790,154	2,205,862
基本財産受取利息	32,906,016	28,111,154	4,794,862
基本財産受取配当金	89,090,000	91,679,000	-2,589,000
受取寄付金	13,100,000	13,155,000	-55,000
賛助会費	100,000	100,000	0
雑収益	743,653	280,671	462,982
受取利息	58,858	1,270	57,588
機関誌頒布収入	10,680	14,620	-3,940
雑収入	25,586	8,104	17,482
科研費・間接費	648,529	256,677	391,852
経常収益計	135,939,669	133,325,825	2,613,844
(2)経常費用			
事業費	91,423,698	92,145,866	-722,168
役員等報酬	10,131,270	10,455,093	-323,823
給料手当	26,375,177	26,107,733	267,444
賞与引当金繰入額	1,378,000	1,378,000	0
退職給付費用	224,500	224,500	0
法定福利費	3,663,395	3,654,331	9,064
福利厚生費	70,720	52,720	18,000
旅費交通費	1,308,551	1,645,346	-336,795
会議費	560,423	681,122	-120,699
謝金	4,259,563	4,938,220	-678,657
会場費	2,279,315	2,298,410	-19,095
研究助成金	7,497,000	7,100,000	397,000
自主研究費	1,200,000	0	1,200,000
通信費	529,078	493,698	35,380
消耗品費	111,365	312,301	-200,936
備品費	774,384	337,930	436,454
図書費	216,932	264,406	-47,474
印刷製本費	4,919,420	7,247,284	-2,327,864
OA機器リース費	255,640	329,325	-73,685
保守・維持費	1,118,428	1,059,065	59,363
賃借料	17,956,200	17,956,200	0
支払手数料	6,559,970	5,548,992	1,010,978
会費	34,367	57,500	-23,133
雑費	0	3,690	-3,690
管理費	39,187,909	38,336,174	851,735
役員等報酬	9,108,633	9,168,615	-59,982
給料手当	5,432,314	5,250,000	182,314
法定福利費	178,266	165,218	13,048
福利厚生費	87,850	168,110	-80,260
旅費交通費	234,900	301,871	-66,971
会議費	96,536	116,044	-19,508
通信費	311,276	253,109	58,167
消耗品費	118,818	75,827	42,991
備品費	183,361	55,484	127,877
図書費	66,000	152,550	-86,550
印刷製本費	256,078	264,900	-8,822
OA機器リース費	231,132	195,933	35,199
保守・維持費	1,170,938	1,112,372	58,566
水道光熱費	1,447,710	1,369,430	78,280
賃借料	17,956,200	17,956,200	0
租税公課	12,240	9,840	2,400
支払手数料	1,963,490	1,376,022	587,468
会費	94,000	94,000	0
雑費	238,167	250,649	-12,482
経常費用計	130,611,607	130,482,040	129,567
評価損益等調整前当期経常増減額	5,328,062	2,843,785	2,484,277
基本財産評価損益等	0	0	0
評価損益等計	0	0	0
当期経常増減額	5,328,062	2,843,785	2,484,277
2.経常外増減の部			
(1)経常外収益			
過年度修正益	652,106	239,881	412,225
投資有価証券売却益	0	19,311,631	-19,311,631
経常外収益計	652,106	19,551,512	-18,899,406
(2)経常外費用			
経常外費用	0	0	0
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	652,106	19,551,512	-18,899,406
当期一般正味財産増減額	5,980,168	22,395,297	-16,415,129
一般正味財産期首残高	124,779,682	102,384,385	22,395,297
一般正味財産期末残高	130,759,850	124,779,682	5,980,168
II 指定正味財産増減の部			
基本財産売却益	0	19,311,631	-19,311,631
基本財産評価損益	-1,135,678,200	-676,420,300	-459,257,900
一般正味財産への振替額	0	-19,311,631	19,311,631
当期指定正味財産増減額	-1,135,678,200	-676,420,300	-459,257,900
指定正味財産期首残高	5,265,889,550	5,942,309,850	-676,420,300
指定正味財産期末残高	4,130,211,350	5,265,889,550	-1,135,678,200
III 正味財産期末残高	4,260,971,200	5,390,669,232	-1,129,698,032